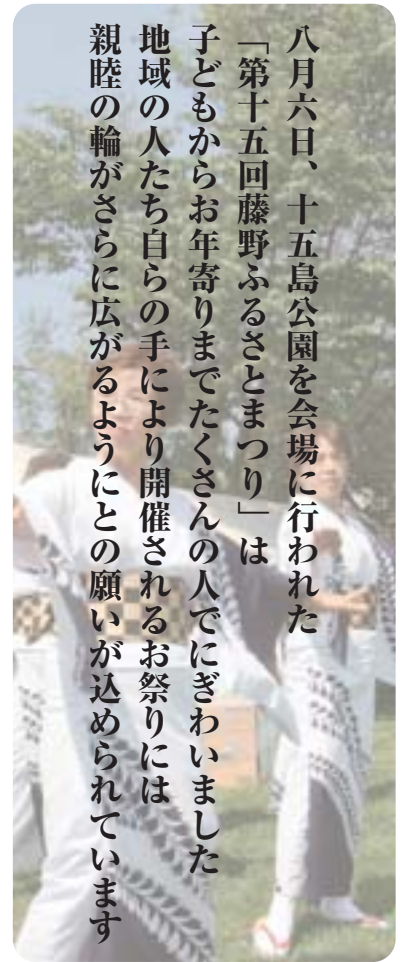


八月六日、十五島公園を会場に行われた「第十五回藤野ふるさとまつり」は子どもからお年寄りまでたくさんの人でにぎわいました。地域の人たち自らの手により開催されるお祭りには親睦の輪がさらに広がるようにとの願いが込められています。



自分たちが楽しんでこそお祭りは成功する

「いつも手伝いばかりで、お客として来たことなんかないんだよ」と言いながら、満面の笑顔で楽しそうにとうきびを焼く児玉浩さん。当日の朝入荷した六百本の新鮮なとうきびを、手際よく皮をむき焼き上げるにはチームワークが重要。「十五年間受け継がれた方法で、みんなと一緒に頑張るよ。とにかく自分たちが楽しくなくちゃ、お客さんだって楽しくないし、お祭りは成功しないよ」と炎天下、



▲暑い中の作業でも、笑い声は絶えません

炭火の熱も加わり汗をかきながら話していました。

今年初めて祭り作りに参加した焼きそばやおでん班の人たちも「暑くて大変だけど、お客さんに喜んでもらえるとうれしいですね。来年もぜひ参加して一緒に楽しみたいですよ」と笑顔で話していました。

こうしてまた、経験と伝統が受け継がれて行くのです。



楽しんでもらいたいという気持ちが支え合いの精神につながる

「毎年、このお祭りを楽しみにして来てくれる人がいます。お年寄りや体が不自由な人たちにも楽しんでもらいたいで、これからも続けて行きたいですね」と話してくれたのは、福祉バス班長の上村砂雄さん。藤野地区内をバスで巡回。臨時の停留所から会場まで、無料で乗車することができます。第三回のお祭りから毎年運行しており、たくさんの人たちに利用されています。



▲毎年楽しみにしています



バスは東回りと西回りの二ルート。会場から乗車する人に、案内係が行き先を確認し「あと少し待つて、西回りのバスに乗った方が家の近くまで行くから、それまで座って休んでたらいよいよ」などと優しく声を掛けていました。

同じ老人クラブに通い、ご近所同士の樋口美智子さん(八十一歳)と山本京さん(八十二歳)は「毎年二人で来ています。このバスがあるからここまで来れるので、ありがたいですね。今日はビールを飲んで、フリーマーケットでお買い物をして、楽しかったです」とお互い目を合わせ、ほほ笑みながら話していました。支え合いの精神が深く根付き、地域活動の土台となっているのです。



▲どこまで行きますか?と優しく声掛け